
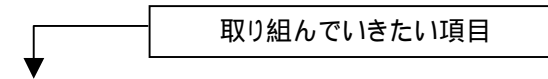


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の基本理念をかかげ、その理念をもとに動いており、玄関や事務所内に掲示して日々目に付くようにしている。		理念をもっと利用者に届く言葉として、「縁」や「絆」という文字を取り入れるなど理念の見直しに取り組みたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の人々への元気な挨拶、散歩での身近な会話など、理念に盛り込まれた要素を少しでも実践できるように努力しているが、日々の取り組みとしては十分とはいえない。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	常に玄関や廊下に基本理念や展示品を掲示し、家族、地域のボランティア等が訪問時に目に付くようにしている。また、ボランティアは貴重な社会資源であり積極的に受け入れるようにしている。		地域密着の取り組みをしっかりと踏まえ、外へのPR活動の強化を目指し、町内会長や老人会長など他との連携を強めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時、または中庭からでも地域の人々に声を掛け挨拶をし、時には「お茶を飲みに来てください」などとお誘いをしている。職員だけでなく、利用者からも気軽に声を掛けることがある。また、地域のボランティアが定期的に花壇の手入れに来て下さっている。		地域密着型サービスとして、今まで以上に地域との交流・連携を深めていく取り組みが必要である。具体的には、招待状などを作成して、手から手と利用者を通じて近所の数件にお渡しする等してみたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	多くはないが、地域の夏祭りや市内のグループホームのお祭り等に参加をするなどして、交流を深める努力をしている。夏祭りでは、係りの方がいろいろと気遣って迎えて下さる。		まずは、町内会長や老人会長の方を招待して、行事参加を少人数からでも試みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>来訪されるボランティアをに対して、認知症への理解を深めるように働き掛けてはいるが、その他具体的な取り組みは現在行っていない。</p>		<p>地域の高齢者をお誘いして、交流できる機会をつくるようにしていきたい。その際、ボランティアの参加協力を不可欠と考え、協働して取り組んでいきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>要改善点を全体会議などで取り上げ、一つずつ改善に取り組んでいる。(基本理念の掲示や、利用者の健康診断実施等)しかし、依然として改善されていない項目もあり、再検討が必要である。</p>		<p>限られた条件の中では、なかなか難しいのが現状であるが、ケアの質や緊急時の対応、知識等、職員個々のレベルアップを目指し、研修実施計画を作成して研修受講の機会を多く作れるようにしたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>議事録を作成し、全職員が内容を周知できるようにしている。会議での意見や要望については、早急に行うことができるよう努めている。</p>		<p>参加メンバーを増やし、更なる理解と協力を得たい。また、事業所内の悩みや相談に対しての多角的な意見を参考にして解決方法を導き出していきたい。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護担当者の出入りはあるが、ほとんどは電話連絡、電話相談による連携が主流となっている。</p>		<p>時間を作って、こちらから市役所窓口に行き話し合いをしたい。また、市の職員が事業所へ足を運んでもらえる機会を増やせるような働き掛けを考えていきたい。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今現在、該当者がいない為、資料を見たり自主学習を行う程度である。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について特別に学ぶ機会は無く、個々の学習のみである。マンネリ化しやすい体制の中、特には上から物を言う言い方や強い口調等、言葉遣いには十分注意をし、職員同士で指摘し合うなどして虐待防止に努めている。</p>		<p>事例を挙げ、事業所全体で勉強する機会を持ちたい。また、職員同士もより声を掛け合い、悩みを相談する等して心のバランスを整え、虐待の心理的要因を作らないよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明ができる時間を確保し、後にトラブルとなることが無いよう一つひとつ読んで説明を行い、お互いの納得を持って契約を交わしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の会話や触れ合いの中で、利用者の声を拾い上げるよう心掛けている。意見、不満、苦情は書面にて運営者に報告書を提出し、早期解決ができるように努めている。</p>	<p>今後も利用者に対して、利用者の意見、不満、苦情を私たちがどのように解決していくのか、その旨を丁寧に伝え、利用者に返していくという姿勢の継続に努めていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話、家族との連絡ノート、郵便、面会時等で密に連絡を取り、生活の様子や特変、金銭等について報告をしている。また、広報誌を発行して、行事や職員の異動等についての報告も行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>電話や面会時、家族ノート等において、時折家族の意向、要望を伺うようにしている。</p>	<p>利用者のグループホームでの生活に、家族等の存在は必要不可欠と考えている。「家族と仲間と共に生きる」をスローガンに、家族会の結成を目指して、よりよい運営に努めていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々のミニカンファレンスや月に一度の全体会議で職員が意見を出し合い、主な議題に沿って議論を重ねている。全体会議の内容は、会議録を作成して運営者へ報告している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の変化、要望に精一杯対応しているが、限れた職員数の中で十分とはいえない。</p>	<p>利用者や家族だけでなく、職員自体の状況変化、要望にも柔軟な対応ができる程の人材確保に向けて、運営者等への働き掛けを強めていきたい。そして、職員がゆとりと安心感を持って勤務できる環境の確立を目指したい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限であるが、離職もあり、職員補充を常に運営者等に依頼している状況である。新しい職員が入った時は、利用者に必ず紹介することから始めて、少しでも馴染んでもらえるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>可能な限り研修参加をしているが、勤務や業務に余裕が無く、なかなか時間が取れないのが現状である。研修に参加した時は、報告書を作成し運営者へ提出しているが、事業所内での研修内容の共有は不十分である。</p>	<p>研修参加が可能な程の人材確保を、運営者等に働き掛けていきたい。また、月に一度、事業所内で勉強会を開き研修報告等の時間を設けていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者の許可のもと、同業者に働きかけをしているが、双方なかなか時間が合わず、実際に交流するまでには至っていない。</p>	<p>お互いのケアの質の向上の為に、同業者と交流を持てるよう具体的なアプローチ方法を考えていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>事業所内の美化に工夫をしてくれたり、身近に姿を見せに来てくれたり等、職員の事を気に掛けていただいている。</p>	<p>まずは職員が現場で不安と思う様々なことを理解してもらえるように、運営者を含めた話し合いの場を持ち、職員の思い、気持ちを汲んでもらえるよう努めたい。その際に、運営者のストレスもお聞きして、相互理解を深める取り組みをしたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>小さなことでも耳を傾けてくれたり、日常生活での気づきをすぐに知らせて指示してくれたりと細やかな配慮をしてくださるが、職員個々の状況把握まではなかなかしきれないのが現状と思う。</p>	<p>同上</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用や申し込みについての相談は、ほぼ家族が主体となっており、本人の様子は家族から伺う場合が大半である。相談の段階では本人自身から話を聴くことは難しいが、その分、家族や他ケアマネジャーからしっかりと話を伺うようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前に必ず家族と十分な話し合いができる時間を設け、家族の思いに耳を傾けることから始めている。特に、入居決定となった方の家族に対しては、信頼の構築が要だと考え、小さなことでも言葉にしてもらえるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族にとってどうということが心配なのか、今、何が必要とされるサービスなのか、に重点をおいて話し合いをしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスやショートステイを利用されている方は、利用前に本人の様子を伺いに行き、情報収集して、本人が混乱無くスムーズに利用できる方法を考えることから始めている。在宅の場合も、可能な限り本人に一度見学に来てもらい、情報収集することから始めている。安心と安全を第一に考えている。		サービス利用開始時には、利用者の中に入って利用者の力をお借りしながら、溶け込んでいただけるようにしている。今後も、利用開始となる利用者だけでなく、受け入れる利用者にも安心感を持っていただけるような支援の継続に努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごす時間を多く取り、語り合ったり、意見を聞いたり、相談に乗ってもらったりして、利用者から常に学ぶ姿勢で日々の生活を送っている。利用者、職員が共存し合う関係作りができています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いを第一に、家族にも抱えている問題、悩みが存在することを理解した上で、気軽に相談していただける関係が築けるよう家族との会話はもちろんのこと、家族を巻き込んだケアに力を入れて、バランスの取れた関係を保てるように努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の間に入って様々なことを伺い、伝えていくことで、良いパイプ役となり、互いの関係が良い方向へ向かうよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話をしてもらったりして、記憶に働き掛けることをしている。また、お便りを送ったり、併設である以前居た建物に立ち寄りたりして、関係の継続に努めている。		残された時間の中で、利用者の1人からでも、大切に思っている場所や人に逢えることの実現に向けて工夫していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人で過ごす時間、利用者同士で過ごす時間の両方を尊重し、職員は常に感情のやりとり等に気を配り、必要な場合は職員が介入して、利用者が孤立することのないよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ボランティアとして、契約終了後も継続して携わっていただいている家族があり、近所の方にも声を掛けて、ボランティアの拡大にもなっている。		できる限り、その後の安否を気遣う通信は取り合っていけるようにしたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いをしっかりと把握し、受け止めることができるよう利用者の声を聴いて、その人らしい生活を送れるように努めている。		より、その人の望む生活が送れるよう、利用者の思いを職員全員がしっかりと理解し、職員の価値観で物事を考えることの無いよう努めていきたい。また、利用者の不安を解消することが生活の中での大きなポイントと考えて支援をしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをもとに、入居後も本人や家族等から生活歴や昔の話を伺い、確認しながら、一人ひとりのあり様を受け止めることに努めている。		個性ある、その人らしい暮らしを全うできるよう支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、利用者の言語や動作をよく観察し、ADLや心身状態の変化を早期発見できるように心掛けている。また、1日1回、ミニカンファレンスを行い利用者の状態を話し合って現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの情報収集に十分な時間を費やしてはいるが、それを適切な時期に介護計画に反映することはできていない。		介護計画の重要性を再認識しなければならない。その上で、迅速な対応ができるよう、介護計画作成に充てる時間確保に努めたい。そして、チームとしてのケアの統一性を図りたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し項目は挙がっているのだが、介護計画作成同様、見直しも適切な時期になかなか行えずにいる。		まずは介護計画作成の徹底から始めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を個人記録やスタッフノートに記入し、情報を共有できるようにしているが、適切な時期に介護計画作成が行えておらず、見直しに活かされているとはいえない。		同上
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族旅行や法事に際して、外部のヘルパーの依頼や調整、必要な資源の検討などを行い、安全に取り進められるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員から紹介していただいたボランティアをはじめ、何気ない地域との関わりの中からボランティア活動に繋がったこともあり、様々な場面でボランティアと協力した支援を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに、必要に応じて相談し、協力してより良いサービス支援を目指している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設の地域包括支援センター職員に運営推進会議を通して意見、要望をいただくと共に、実習生受け入れ等も協働して行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族に付き添いを依頼していることもあり、アクセスにも考慮した上で主治医を決めていただき、定期的を受診している。基本的には、協力医療機関の総合病院に主治医を定めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>受診に必要な情報提供を行い、家族を介して医師に相談をしている。主治医を各自定めているが、認知症の専門医ではない。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>利用者の特変時等の相談者として併設の看護師との協力がある。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>緊急時、入院時に備え、なるべく協力医療機関に主治医を置き、定期的に受診することで、利用者の様子を普段から知っていただくようにしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時より、ここが終の住処では無いこと、その他事前に懸念すべきこと等は家族に説明し、話し合いをしている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事業所の方針をしっかりと告げるようにしているが、実際にはどの程度までなら利用可能なのは利用者の状態によって異なる為、臨機応変に話し合いながら決定している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームからの住み替えに伴い、これまでの生活歴や支援内容、注意点等について家族に情報提供し、別の居所での生活に役立つよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声掛けにおけるプライバシーの確保には、気を配っているが、現状では十分とはいえない。</p>	<p>利用者のプライバシーを損ねる声掛けをしていると感じた時は、職員同士が声を出し合って注意していくと共に、よりよい声掛けの方法や意見を出し合って皆で共有していけるようにしたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の持っている力に応じて洋服を選んでもらったり、生活の中で小さなことからでも自己決定していただくことを心掛けてはいるが、十分にその支援ができていない。</p>	<p>職員一人ひとりが、意識を持って利用者の自己決定の重要性を理解し、自分で決めていただく機会を提供できる生活支援をしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の業務(掃除、シーツ交換、消毒等)や利用者のADLの状況によっては、職員の都合で生活を進めてしまっていることがあるが、できる限り希望に添い、本人のペースを大切に生活をしていただけるよう心掛けている。</p>	<p>業務の必要性や時間の使い方を再検討し、利用者の希望する生活を送れるような体制作りを考えていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人の着たいものを着ていただけるよう支援している。また、化粧をしてメリハリをつけ楽しんでもらえるように接している。理美容については、近所で認知症の方への理解がある美容室を利用している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の下準備や、盛り付け、配膳等できる範囲で職員と一緒にやっている。その方の得意なこと、好きなことを理解し、利用者の適材適所を考え、やっていて楽しいと思っただけのような気配りをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者個々の健康状態も考慮した上で、極力本人の好みに合わせたものを提供できるように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者の気持ちを汲むことを前提に、排泄パターンの把握と清潔維持に力を入れ、一人ひとりに合った排泄支援を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日々の業務や限られた人員の中、全利用者の安全確保が第一と考えている為、職員の都合で入浴を決めてしまっているのが現状である。入浴の時は、利用者には必ず声を掛け、事前に了承していただくことを前提とし、希望がある場合は入浴日時を調整している。</p>		<p>数回、夜間入浴対応をしたが、今後も無理のない範囲で提供できるようにしていきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>年齢と生活リズムを考慮し、夜はぐっすり眠れるように支援している。寝付けない方には、臨機応変に温かい飲み物の提供や会話をしたり、短時間の昼寝を取り入れたりと工夫している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの趣味や特技を見つけられるよう情報収集に努め、得意分野を中心に活気を持って楽しんでいただける支援を心掛けている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理を原則として、可能な方には財布に入れて所持していただいている。また、事務所に預けていることを理解されている方は、必要時に頼みに来られることがある。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出機会の増加を目指しているが、日々の業務や勤務人員等により、なかなか外出することができていない。</p>		<p>どうすれば外出を増やすことができるか、事業所全体で話し合い、日々の業務や時間の使い方等を再検討する必要がある。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族や外部のヘルパーの協力のもと、家族旅行やお墓参りに行くなど機会を作るよう努力している。また、年に1度は、家族参加型の日帰りツアーを企画することとしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、事務所や併設建物内から電話ができるように支援している。また、面会がなかなか難しい家族には、電話をして利用者と話をする機会を作ってもらえるように働き掛けている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間を除いて、玄関には鍵をかけずオープンに構えて、気軽に訪問していただけるようにしている。庭には、花や植物を並べ、暖かい雰囲気を作り出している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、基準や具体的な行為の正しい理解については不十分である。		身体拘束についての正しい理解やその他基準等について、全体会議等で勉強していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除いて、玄関や居室に鍵をかけることはしていない。夜間帯、本人の意思により居室のドアに鍵をかける方はいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人ひとりが、今どうしているかを常に把握するように努めている。外へ出る利用者に対しては、玄関に鈴をつけ、戸を開けたことがわかるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	原則として、危険物は職員が管理し、必要な時には職員の見守りのもと使用していただいている。また、個人の持ち物に関しては、家族に説明をし、協力、理解を得るようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者それぞれの発生し得る事故を理解し、こまめに情報を共有して未然に防げるよう心掛けている。		さらなる知識を学ぶ努力が必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルを作成し、全員が周知するようにしているが、応急手当等の技術にはバラつきがある。訓練も、定期的に行っていない。		事故発生時、すぐに対応できるよう、定期的な訓練が必要である。また、ただ訓練を行うだけでなく、しっかりとシミュレーションをして、応急時の実践につながる訓練をしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防災訓練があり、毎回、利用者、職員共に代表者を決めて参加し、緊急時に対応できるように努めている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の現状を、面会時や電話等で家族に伝え、起こり得るリスクについての説明や対応策を話し合い、家族としっかり向き合うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行っている。また、利用者を常に気に掛けて体調変化の早期発見に努めている。特変時は受診につなぎ、カンファレンスや記録記入等で情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書や薬のファイルを個別に作成して、全職員が目を通すとともに、必要に応じて確認できるようにしているが、薬の目的、用法、副作用について全職員がすべて把握しているとはいえない。		服薬について十分注意をし、居室担当が中心となってチームに伝え、薬の重要性を全職員が理解する必要がある。具体的には、個人の薬一覧表を作成して、変更がある度更新し、全職員がひと目で薬の内容を確認出来る様式を検討したい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取、青汁、牛乳等で自然排便を促せるよう努めている。また、腹部マッサージ、歩行や運動も取り入れている。排便の確認には力を入れているが、全入居者の把握まではなかなか難しい。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼食後は洗浄の声掛けを行い、夕食後は一人ひとり対応し、うがいと義歯の洗浄(洗浄液につける)を職員の見守りや一部介助のもと行っている。また、起床時は食堂でうがいを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは併設の栄養課の献立作成によって確保している。食事量の少ない方には、捕食や栄養ゼリー等を摂取していただくようにしている。食事量、水分量はパソコンに入力し共有できるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがい、消毒については徹底して行っている。感染症に対しては、対応マニュアルによって取り決めがなされている。		今後も、基本スタンスとして毎日しっかりと手洗い、うがい、消毒を行い、感染症等の予防に努めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に1度、冷蔵庫掃除を行い、期限や中身をチェックしている。また、調理品については1日経ったものは処分することとしている。食器や調理用具等は、週に1度消毒を行い、可能な食器については、毎食後食器洗浄器にかけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲や玄関先、庭等に花壇や四季の草花を並べ、ベンチも置いて、ゆったりと心和む空間を作っている。また、玄関には、装飾品や思い出アルバムを置く等、親しみやすい雰囲気を作れるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、花や季節の飾りを置いたり貼ったりして、季節を感じていただけるように努めている。また、大きなカレンダーやホワイトボードも活用している。音楽を流したり、照明や清潔にも気を配り、心地良い空間作りを大切にしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が自由に利用できるよう、デイルームや食堂では、イスやテーブルの位置には特に配慮をしている。利用者が安心できる場の提供を目指している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と相談して、必要と感じるものの搬入を依頼しているが、現実には、利用者が使い慣れたものの搬入はほとんど無く、新しいものでの対応となることが多い。その中で、利用者が快適に過ごせるよう努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は各居室の窓を開けて、空気の入替えを必ず行うようにしている。また、温度やにおいにも気を配り、利用者の状況を確認しながら室内換気扇や冷暖房を活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等、既存の設備以外に、危険と懸念されることには、工夫をして対処をし、安全な生活を送れるように努めている。(引き戸の固定や紐手すりの設置、食堂の座席配置の工夫等)		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者それぞれの優れている分野を生かし、適材適所で活躍できる支援を心掛けている。混乱や失敗にも、一人ひとりに合った言葉掛けや対応をし、安心していただけるように努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には花や植物を多数並べており、外周からも楽しめるようになってきている。ベランダには自由に出入りできるが、火災予防対策や景観重視のため、布団等を干す以外にはほとんど活用できていない。		利用者自身が、ベランダで洗濯物を干したり、植物を育てられるような支援を考えていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者同士のつながりが見えてきており、相手を気遣い、助け合う気持ちが育まれてきている。
- ・排泄介助に力を入れ、利用者の清潔保持はもちろんのこと、精神的苦痛の軽減に努めている。
- ・ボランティアが増え、利用者支援の一部となっており、利用者、職員共々、ボランティアとの関係性を大切にしている。
- ・建物の清潔には、力を入れている。また、庭の軒下には2年越しで作られたつばめの巣があり、みんなの宝物となっている。
- ・利用者の誕生日には、ケーキや利用者、職員からのメッセージを添えたバースディカードを用意して盛大に祝っている。
- ・看護職がいない中、毎日のバイタル測定、状態観察をまめに行い、日々のちょっとした変化にも気づけるよう努めている。
- ・利用者の楽しみであるおやつは、菓子店に宅配を頼んで、おやつに変化を加えるようにしている。
- ・家族だけでは、職員だけではできない支援の融合を目指し、利用者の残された生活が充実したものとなるように努めている所が一番のアピールしたいところである。